

二〇二四年度

静岡英和女学院中学校・高等学校 入学式

大切なこと

満開の桜の下、英和正面のジャスミンの香りに包まれ、晴れて入学された新入生皆さん、ご入学おめでとうございます。

また本日、ご隣席頂きましたご家族の皆様、お嬢様のご入学を心よりお慶び申し上げます。おめでとうございます。

そして柴田学院長はじめご臨席を賜りましたご来賓の皆様にも心より感謝申し上げます。後ほどご紹介させていただきます。

加えて礼拝堂入り口にありますように、皆さんが卒園された幼稚園、卒業された小学校、中学校の先生方、関係者の皆様からもお祝いのメッセージを頂きました。ひと言、感謝申し上げます。

さて英和女学院はカナダからの女性宣教師カニングハム先生が創立した静岡で最初の女子校です。最初は先生と日本人教師三人、寮生活の

生徒十六人でした。ごくわずかの生徒から始まりましたが、創立以来、英和女学院は「神様を愛し、隣人を愛する」との聖書の言葉を大切にしてきました。

「神様を愛する」とは、神様に感謝を覚えることです。例えば、夜寝る前や、独りでいる時に理由もなく寂しく、悲しくなることがありますか。自分の足りない、自分の欠けている貧しさに情けなくなることはありませんか。これから自分はどうしようと不安で寝られないことはありませんか。でも疲れ果て眠ってしまい、少しでも休めた時には、何も考えられず、答えも見つからないままでも、新しい一日が与えられます。どうか自分の願いや思いを超えて、新しい一日に向かって心を新たに祈る幸いを感謝しましょう。

そして「隣人を愛する」とはお互いに足りないところ、欠けたところがありながらも、赦し、慰め、励まし合い、お互いを大切にして学校生活を送ることです。そのためには自分と相手という狭い世界に、神様が共におられると意識し

てみましょう。

これから英和生自身のお祈りを聞いているとわかります。多くの英和生はお祈りの最後に「あなたが共にいてお守りください」と祈ります。本当に英和生の素晴らしいところです。

それは自分だけでなく、相手が神様に愛されていると信じることです。自分と相手とだけの世界ではなく、神様が共におられる世界を信じることです。だから共に祈ることが大切なのです。そして共に祈ることは、私たちの狭い世界、次元を超えて、私たちが互いに愛し合う行動へ導いていきます。

新入生みなさんの英和での歩みに神様の祝福を祈ります。どんな日にも神様が共にいてあなたがたを守られますように。喜びと感謝のうちに過ごされますようにお祈りしています。

二〇二四年四月六日

静岡英和女学院中学校・高等学校
校長 大橋 邦一